

都市再生の全体概要図における県庁舎跡地 目指す姿「平和と文化の国際交流拠点都市 長崎の再生」

・適切な機能分担に基づく4エリアの重点整備
・エリア相互間の結節強化

国内外から多くの人を呼び込み、広く回遊させることにより、長崎全体に賑わいを波及させる
(長崎市の年間観光客数H23年:600万人 ⇒ H32年:700万人)

長崎駅周辺エリア (陸の玄関口拠点)

国内からの来訪者を迎え入れる陸の玄関口として、集中的な都市基盤整備を行う

- 駅周辺の区画整理
- MICE施設の建設(検討中)
- 旭大橋の低床化
- 新県庁舎・防災広場の整備

県庁舎跡地の活用

離島航路ターミナル

海の玄関口拠点

出島の復元整備

離島から

水辺の森公園

県美術館

新市立病院の建設

国際ターミナル

松が枝ふ頭の拡張

海外から

松が枝周辺エリア

(海の国際玄関口拠点)

海外からのクルーズ客を迎え入れる海の玄関口として質の高い港湾環境整備を行う。

人の流れ(公共交通機関や徒歩による回遊性を向上させる)
..... 主な歩行者動線

大黒町恵美須町線の整備
岩原川プロムナードの整備

中央エリア

(交流と賑わいの拠点)

業務機能を維持しつつ、公共施設の再編を核として新たな交流を生み出す

歴史文化博物館

市立図書館

市民会館

市庁舎跡地の活用

郷土資料センターの建設

新大工地区の再開発

新市庁舎の整備

まちぶらプロジェクトの推進

銅座川プロムナードの整備

唐人屋敷跡の顕在化

まちなかエリア

(歴史と賑わいの拠点)

歴史を活かした地域の魅力向上と商業の振興を図り、求心力を再生する